

I. 不本意な離職後、思うように仕事に就けない方へ

ふと気づくと、こんな言葉が頭をよぎっていませんか？

「今になって仕事を辞めさせられることになるなんて思ってもいなかった。こんなことになってしまって、何一ついいことなんかない」

「恥ずかしくて昔の知り合いに会えない。どんどん疎遠になってしまう」

「一日だらだら過ごしてしまう。気づけば家から一歩も出ず、誰とも話していないこともある」

「こんなに頑張っているのに再就職ができない。きっとみんなスムーズに再就職が決まっているのだろうと思う」

「過去の後悔や将来の不安にさいなまされる。気づくと、時間だけが経っていて、何もしていない」

「このままずっと再就職できないのではないかとすると不安で仕方がない。エンドレスに続くかと思うと、足がすくむ」

多くの人が最速最善で何かをつかみどこかに登り詰めようとしていた時代の中で、今、私たちは必ずしもすべての人がその地にたどりつけない現実に直面しています。それはまるで、わき目も振らず、高速のエレベーターや数階上のフロアに一気に駆け上がるエスカレーターに乗っているかのような人生だったかもしれません。そして、それは今後も続くはずだったかもしれません。ところが、思いもかけず、会社を辞め、再就職活動に入らざるを得なくなる人が増えています。



この予期せぬ、あるいは望まざるキャリアの中断をどのように理解し、この時をどのように過ごすことができるでしょうか。今の状況は、これまで当然上昇し続けると思っていたエレベーターやエスカレーターを道半ばにして、降りた状況にあるといえるでしょう。改めて自分の足で、ゆっくりと新たな階段を上るにあたり、今、人生の踊り場にさしかかったともいえるでしょう。

これから先、どの階段をどんなふうに進んだらいいのか、歩むことができるのか、途方に暮れる一方で、少し周りを見渡してください。そこには今まで気づかなかった風景が広がっているかもしれません。耳を傾けてこなかった風の音が聞こえ、そっと吹き抜ける風のそよぎを感じるかもしれません。今までそんな風景に触れる時間がなかったことに気付くかもしれません。

今まで歩んできた道を振り返ってみてください。どんな人たちに助けられ、自分は何をしてきたのか、そして何をしてこなかったのか。ゆっくりと自分と向き合ってみる時間を持ってみてください。

今からもう一度自分の人生の階段を進むに際して、この人生の踊り場は今一度自分を振り返る貴重な人生のひと時になるかもしれません。人生の流れが止まったかのように見える今にしか見えないものを観て感じてみる、今をそんな風に過ごしてみることもできるかもしれません。

